

校内放送指導者講座報告

相模女子大学高等部

吉田 豪

校内放送指導者講座の受講内容について報告いたします。今回初めて参加させて頂いたのですが、すべての講座において得るものが多く、非常に有意義な二日間でした。参加に伴いご協力いただきました先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。

・スケジュール

12月26日（月）

10:00～10:30 … 受付

10:30～10:45 … 開講式。

10:45～12:15 … 講座1 「顧問交流」

昼食

13:00～14:30 … 講座2 「アナウンス・朗読 初心者の指導法」

14:45～17:00 … 講座3 「アナウンス・朗読 審査講習」

17:00～17:10 … 諸連絡

17:30～19:30 … 懇親会

12月27日（火）

9:00 ～ 9:30 … 受付。

9:30 ～10:30 … 講座4 「実践発表」

10:45～11:45 … 講座5 「番組制作における法的注意点」

昼食

12:45～15:45 … 講座6 「番組技術と模擬審査」

15:45～16:00 … 閉講式

※ 大雪による新幹線の遅れや食堂の混雑などで初日は少々ズレが生じましたが、ほぼ予定通りでした。

?

・内容

8人ほどの班に割り当てられ、参加者120名が15班に分かれて講習を受けました。

講座1、6では班ごとに、講座3、6では前後席の教員間でのディスカッションを行いました。

講座1

班ごとに、自己紹介や現在の活動状況などを交えてフリートーク。私の班では、部員確保や普段の活動、大会に向けた指導の方法などについて話をしました。

個人的に印象に残った話を紹介しますと、

- ・校内の仕事の活動と、大会に向けた制作や練習とのバランスのとり方が重要
- ・近隣の図書館での読み聞かせなど、学外での活動は相手にも歓迎される
- ・校内の仕事は成功して当たり前と言われるが、校長から生徒への賛辞があると生徒は喜ぶ

などなど、書ききれないくらいの収穫がありました。

各班で書記が書き残したものを、事務局の先生方がすべてスキャンしてCD-Rにした上で、二日目の閉講式にて配布してくださいました。

講座2

放送部に所属していない生徒が実際に登壇し、NHK放送研修センターの山下俊文氏より、具体的な指導をするという内容でした。今回初めての試みとのことですが、非常に参考になりました。

実際に生徒に文章を読ませ、適宜指導を加える実践的なケーススタディを学ぶことができました。

以下、その指導の際にポイントとなる必須事項を列挙します。

- ・生徒の声の特性を把握する ⇒ 喋り癖を本人に気付かせる。
 - ・喋り癖のある人は読み癖もあるので、早目に確認しておく。
 - ・なお、自分に適した声とは、楽に声が出て、届きやすいトーンの声の事。
 - ・助詞や語尾を伸ばさない。「息」を文全体に対してたっぷり使う。
 - ・意味をつかんで声にする。そのときに「間」を生かす。
 - ・4～5m先に届けるようなイメージで、しっかりした声を出す。
 - ・口を動かし過ぎず、明瞭な発声発音をする。
 - ・間や切り方、イントネーションなどに注意し、意味通りの自然な話し方を意識する。
 - ・声は空気振動なので、息の出やすい姿勢を意識する。（アゴを引かない、正面やや上向きに発声）
 - ・高い声は明るく、低い声は暗く聞こえる。
 - ・文を3秒程度に区切り、息をたっぷり吸って大きく高い声から始め、文末は息を吐きながら小さく低く発声する。文の途中で単語を強調しようとする和不自然に聞こえてしまう。
- 次ページに続きます。

・文中に強調したい言葉がある場合、強弱だけor高低だけで強調する。

強弱and高低で強調すると、文がそこで切れてしまう。

講座3

今年度の全国大会進出者の朗読やアナウンスを実際に聞き、模擬審査を行いました。

講座2での注意点をポイントとして抑えることで、審査の点数を安定させることができるようになりました。個人的には、まだまだ最初のひとりの点数によって混乱していますが…。

聴いて自分で採点 ⇒ 周囲とディスカッション ⇒ 会場の平均点や実際のNコンでの点数、山下氏の採点やコメントを確認… という形で進みました。

懇親会

見た感じでは、およそ50人が参加していたようでした。

「辛いと言えないのが辛い」という、福島県の先生の言葉が印象的でした。

講座 4

顧問歴4年目で4年連続全国大会に出場している鳥取の米子工業高等専門学校の田中晋先生より、「理系学生による番組制作 ～少人数部員からスタートした初心者顧問の取り組み～」というお話を伺いました。

PC操作など情報リテラシーが非常に高く、番組制作の技術的な部分に興味を持つ学生が多い反面、番組の構成力やアナウンス志望者数に難を抱えているとのことでした。

田中先生自身が学生時代に映画研究部に所属していたり、映像制作会社でビデオカメラマンのアルバイトをしていたり、地域の自主製作映画作りにも参加していたりしています。

その経験を生かし、

- ・ Nコン番組部門ための戦略作り（審査員を想定したテーマ、米子高専ならではのテーマなど）
- ・ メーリングリストやGoogleドキュメントを活用した部員の連絡連携の強化
- ・ 映像制作に関連する書籍を活動場所に置き、生徒自らが深く学ぶ環境を作る。
- ・ 企画は模造紙やポストイットを用いたブレインストーミングを多用。その後、前述のメーリングリストやGoogleドキュメントを用いて導入・展開・オチ・作品のテーマまでを仮決めする。
- ・ 絵コンテや香盤表、撮影スケジュールを生徒に作成させる。
- ・ 技術的な指導が一段落したら、なるべく顧問は撮影に立ち会わないようにしている。

？

講座 5

NHKの法務部弁護士 梅田康宏氏より、著作権についてお話を伺いました。

著作権に関する基本的な原則や考え方からご説明頂きましたが、この紙面では実際の作品制作に関する部分のみご紹介します。

- ・ 数学や英文法の問題、折り紙の折り方、料理の作り方などは保護されない。
- ・ ノンフィクションやドキュメンタリーの「事実」部分は保護されない。
- ・ 演出やストーリー展開などで、先行する複数の作品で用いられている表現は「ありふれた表現」であり、保護されない。

- ・建物など、屋外に存在するものには著作権は発生しない。東京スカイツリーや東京ドームもOK。ただし、撮影禁止の場所（私有地や敷地内など）からの撮影をすると不法侵入に問われる。
- ・撮影時に入り込んでしまったBGMは、気にならないレベルならOK。この基準は曖昧で、はっきり聞こえない、あるいは短時間であるなど、作品に積極的に取り入れてなければ…だそうです。
- ・NHKで番組を作る際には、著作権だけでなく、放送倫理の面からも気を付けている。

講座6

ドキュメンタリー番組の模擬審査を行いました。分析については、NHK制作局の工藤俊二氏より基本的なラインについて説明がありました。

- ・映像編集は、原則を大事に行う。
- ・番組を見る立場は3つ。放送部の顧問として指導する立場、コンテスト審査員としてあら探しをする立場、そして何も知らずに好みか否かで見ると一般視聴者の3つ。これら3つの立場を総合してマルチな視点で見るのがプロデューサーであり、そうなれば良い。
- ・伝えたいことを伝えるためにストーリーを組み立て、映像や素材を選び、無駄を削ぐ。
- ・インタビュー内容は、原稿起こしをしてストーリーの流れに沿うものだけを使う。
- ・インタビューする際には人物ごとにカメラポジションを変え、背景を変化させる。そうでないと、画面の切り替わりが不明確になってしまう。
- ・「映像に語らせる」をはき違え、映像インサートを使い過ぎる傾向がある。きちんと話をする人の顔を見せる。（「～さんにお話を伺いました」が不要になる。）
- ・タイトルは作品の看板なので、内容が分かりやすく伝わるように。
- ・インタビューにふさわしい場所を意識する。大会の事を聞くなら、後日ではなく大会当日に。練習に言及するなら練習風景も。普段の何気ない学校生活や自宅での様子もあればなおよい。これらを総合して、インタビュー対象の「人となり」を描く。

この二日間で得たことを今後の指導に活かし、生徒たちの作品制作力アップを目指したいと思います。